

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3590104034		
法人名	(株)セービング		
事業所名	グループホーム小月		
所在地	山口県下関市小月宮の町7-3		
自己評価作成日	令和2年2月16日	評価結果市町受理日	令和2年6月5日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
聞き取り調査日	令和2年3月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は地域の一員として、地域の方々との交流を大切にし、互いに協力合っています。入居者様は職員と一緒にスーパーへ買い物に行くと、顔なじみのご近所さんと話をしたり、よく婦人会の方々から話しかけて頂いています「ゆつくり」「いっしょに」「楽しみながら」入居者様の力を最大限に活用し、入居者様にとっての1日を大切にしています。地域の行事(夏祭りや文化祭等)や毎月の外出支援を積極的に取り入れ、入居者様の楽しみになることを増やすように心がけています。家族の面会や地域の方々が気軽に来訪し、年3回の家族会(行事)では親子、孫、ひ孫などたくさんの家族に参加して頂き、イベントを通して少しでも家族との絆を大切に、どの世代の方でも一緒に楽しめるようにと計画し、行っております。家族と情報の共有をしっかり行い、馴染みの関係ができています。また、グループホーム小月では開設当初からの職員も多く、家族の方からは「スタッフの皆さんがいつも同じ顔ぶれで、安心している」などお褒めの言葉を頂いております。職員に関しては、法人全体研修、外部研修への参加や内部研修を行い、介護の知識や技術を学び、実践につながるよう日々努力しています。そして小学生との交流や中学生の職場体験の受け入れ、婦人会のボランティア活動等、地域住民として、互いに地域に貢献、協力できるようにしています。認知症への理解を深めるためにも、地域の徘徊者声かけ模擬訓練の協力参加、同一敷地内には認知症カフェを設置して、地域の方々との交流の場を設け、気軽に立ち寄りたくなるような取り組みを行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自治会に加入しておられ、利用者と職員が一緒に清掃活動や地域の夏祭り、文化祭や地域の行事に参加しておられます。地域の歌好きの人との毎月の「歌の会」やボランティア(フラダンス、書道、小月平家太鼓等、)が来訪され、利用者の楽しみとなっています。事業所の地域への貢献として婦人会から毎月8名の来訪時に、談話や折り紙等レクリエーションの後、認知症の勉強会を行っておられます。小学校のクラブ活動(日本舞踊)の舞いの披露、中学生の職場体験の受け入れや同一敷地内で認知症カフェを月1回開催しておられるなど、地域の人々との交流を大切におられます。利用者ひとり一人の思いや暮らし方の希望を日々のケアから把握され、お花を生けていた利用者と一緒に毎月お花を生ける、農作業をしていた利用者と一緒に菜園の土いじりをする、習字をしていた利用者には書初め等の作品を壁に飾るなど、利用者の笑顔が自然にでる支援をしておられます。月に1度は外出の日を設けておられ、買い物や散歩、季節の花見やドライブ、家族の協力を得ての外出、美容院の利用、買い物、カラオケ、外食、外泊、法事への参加など楽しみごとが増えるように支援しておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらい
			3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらい
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員は、活き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホーム小月の理念、企業理念、行動指針をホーム内に掲示し、朝礼時と職員会議にて唱和している。新入社の職員には理念について説明し、内部研修にも理念について取り入れている。介護をする上で様々な問題が起きた時に、理念を振り返り、実践につなげている。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所独自の理念をつくり、法人の理念と行動指針と併せて事業所内に掲示している。朝礼時と職員会議で唱和し話し合っ共有し、理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しており、利用者と一緒に清掃活動に参加したり、地域の夏祭りや文化祭に参加し、地域の行事に参加している。地域の方との歌の会(毎月)、フラダンス、書道、小月平家太鼓のボランティアによる行事があり、利用者の楽しみとなっている。婦人会から毎月8名のボランティアの来訪があり、談話や折り紙等レクリエーションの後、勉強会を行っている。小学校とも交流があり、クラブ(日本舞踊)活動で、来訪して頂き、舞いを披露してくれている。中学生の職場体験を受け入れている。また、近所の人と散歩中挨拶を交わしたり、買い物途中に声をかけて下さることもあり、日常的に交流している。自治会発の徘徊者声かけ模擬訓練に参加、協力をしている。	自治会に加入し、利用者と職員は一緒に清掃活動や地域の夏祭り、文化祭、地域の行事に参加している。地域の歌好きの人の来訪があり、毎月「歌の会」を開催している。ボランティア(フラダンス、書道、小月平家太鼓等)の来訪があり、交流している。婦人会から毎月8名のボランティアの来訪があり、談話や折り紙等レクリエーションの後、認知症の勉強会を行っている。小学校のクラブ活動(日本舞踊)の来訪があり、舞いの披露がある。中学生の職場体験を受け入れて交流している。認知症カフェを同一敷地内で月1回行い、地域の人と交流している。地域の徘徊者声かけ模擬訓練があり、職員は徘徊役として協力している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎回婦人会ボランティア訪問時に行っている勉強会では、認知症に対する理解や施設についての質問に答える機会を設けている。また、運営推進会議にて、情報提供や意見交換を行い、入所相談など地域の方々と情報共有している。それから認知症カフェを同一敷地内にて月1回行い、地域の人々との交流の場を設けている。地域の徘徊者声かけ模擬訓練では職員は徘徊役として協力している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	管理者が職員会議にて全職員に評価の意義について説明し、管理者が自己評価書類を全職員に配布し、全職員が記入後、管理者がまとめている。自己評価を記入することで日頃のケアを見直すとともに新しい知識を得て、介護サービスの質の向上を図ることができるように取り組んでいる。また、法人内全体研修にて、新入社員は毎月介護について学び、内部研修にて緊急時の対応、応急手当について継続して取り組んでいる。	管理者が職員会議で全職員に評価の意義について説明している。全職員に自己評価をするための書類を配布し、記入したものを、管理者がまとめている。自己評価を記入することで日頃のケアを見直す機会とし、介護サービスの質の向上に取り組んでいる。前回の評価を受けて目標達成計画を立て、緊急時のマニュアルの見直し等、具体的な改善に取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、地域包括支援センター職員、地域の各団体の代表の方々に参加して頂き、利用者状況、活動状況(行事予定)、ヒヤリハット・事故等について報告を行っている。その評価を受け、要望を尋ね、改善し、サービス向上に努めている。運営推進会議にて消防団や婦人会に避難訓練参加協力の呼びかけをしている。	会議は年6回開催している。利用者状況、活動状況と今後の予定、ヒヤリハット・事故等について報告の後、意見交換を行っている。災害時の避難場所、介護ロボットの導入、アイランドキッチン等の質問があり、意見等はサービス向上に活かしている。運営推進会議で消防団や婦人会に避難訓練参加協力の呼びかけを行っている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当課とは、電話やFAX等で情報交換をしている。地域包括支援センター職員とは運営推進会議参加時や電話、出向くなどして利用者状況等の情報交換を行い、連携を図っている。	市担当者とは、電話やFAX等で情報交換をして協力関係を築いている。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議時や電話、出向く、認知症カフェや徘徊模擬訓練等で情報交換を行い連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修や身体的拘束適正化委員会にて全職員が身体的拘束について学び、理解を深めている。通常、玄関の施錠はしているが、利用者が外出したい時にはその都度一緒に出たりと利用者の気持ちを大切にして職員同士が協力し合っている。スピーチロックについてはその都度、管理者や職員間で話し合い、注意し合うようにしている。	内部研修や身体的拘束適正化委員会で全職員が身体的拘束について学び、理解して、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関に施錠はしているが、外出したい利用者とは、職員が一緒に出ている。スピーチロックについてはその都度、管理者が指導したり、職員間で注意し合っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待、身体拘束についての内部研修を実施し、全職員が認識を共有し、事業所内にて、心理的にも身体的にも虐待のないよう注意を払い、防止に努めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護と成年後見制度についての内部研修を実施し、理解を深めている。これらに関連する研修等にもっと参加し活用できるように、支援につなげていきたいと考えている。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や改定の際には、家族等にゆっくりとわかりやすく説明し、不安な点や疑問点を尋ね、十分に理解し納得していただけるように努めている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に相談、苦情の受付体制や処理手続きについて家族に説明している。家族会や面会時、電話で意見や要望を尋ねている。職員会議や運営推進会議にて意見や要望の報告を行い、サービスの質の向上に努めている。家族会にてアンケート(意見・要望等を記入してもらう)をとり、家族からの意見を取り入れ、家族から意見を出しやすいよう工夫している。	契約時に苦情や相談の受付体制や処理手続きを本人や家族に説明している。家族会や面会時、行事参加時や電話等で、家族からの意見や要望を聞いている。家族会でアンケートを実施している他、事業所だよりを月1回発行している。家族会では、ソーメン流し、大掃除、年越しそば、法人持ち回りの花見の会食等を行っている。家族会実施時の駐車場の確保や名札の準備等の要望がある他、日常のケアについての意見や要望には、その都度対応している。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者代理は職員会議等で職員の意見や提案を聴いている。管理者は申し送り時や日常の業務の中で職員の意見や提案を聴き、判断できない場合は代表者代理に尋ね、問題を放置せず、解決するように努めている。	代表者代理は、職員会議等で職員の意見や提案を聞く機会を設けている。管理者は申し送り時や日常の業務の中で職員の意見や提案を聞き、代表者代理と協議し運営に反映している。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会社としては、ES(従業員満足)向上運動への取り組みを行っているが、職員皆が満足するところまでは達していない。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム協会に加入し、代表者は外部研修に参加できるように情報を伝えている。外部研修の希望は勤務調整し、参加できるように支援している。また、法人内グループホームの管理者同士で話し合い、1年間の接遇や緊急時の対応等の研修のテーマを決め、働きながらトレーニングできるように支援している。普通救命講習を受講する。	外部研修は、代表者が職員に職員に情報を伝え、勤務の一環として研修の機会を提供している。この1年は参加者はない。法人研修は、月2回、決まった曜日に同じ研修内容の研修があり、全職員が参加できるように計画している。内部研修は、月1回、研修計画に沿って、認知症、応急処置、感染症予防、災害時の対応、看取り等を行っている。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加入しており、他施設の同業者と交流する機会がある。他施設の見学や勉強会を通して、情報、意見交換を行うことができています。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時にセンター方式に基づいた書類を家族に記入して頂き、サービス導入前に本人のことを知るということを行っている。本人の思いを傾聴し、安心して生活できるように環境を整え、信頼していただけるよう努めている。ホームに入られてからも出来る限り今までと変わらず生活を続けていただくために情報収集を行っている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思いや入所までの経緯、家族としての要望等をしっかりと聴取し、全職員で共有してサービスを行うことで安心していただけるように努めている。最初は家族に安心してもらうためにも、必要に応じて、こまめに連絡（電話、手紙等）をとることもある。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	日常生活動作、身体的・精神的健康、社会関係、経済状況、住生活環境などについて、本人と家族等の「その時」のニーズを的確に把握し、適切な支援ができるように努めている。本社で一括して入居申込書や情報を管理し、専門職などの意見やいろんな観点から、その人らしさを最大限に引き出せるようなサービスを提供できるように努めている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が全て行うのではなく、一緒に家事をしたり、利用者が出来ることやしたいことは可能な限り何でも一緒に行い、お互いに足りないところを補い合えるような家族のような関係を築けるよう努めている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお手紙では、利用者（お父様お母様）の情報を提供、共有して頂き、認知症や症状について理解を深め、気軽に来訪して頂けるよう心掛けている。誕生会には家族に来て頂き、一緒に祝い、共に過ごす時間を大切にしている。年3回の家族会でも多くの家族に参加頂き、イベントを通して、家族との時間を楽しめるよう努めている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力を得て、馴染みの美容院に出かけたり、お正月やお盆には出かけ、法事の出席やドライブ、外食に行っている。家族や親戚、近所の人の面会があり、利用者に年賀状や暑中見舞いを書いて頂いている。敬老の日や父の日、母の日のお祝いが送られてきた時にはお礼状を書いて頂いたり、電話をしている。家族が入居者の居室で宿泊できるようにするなど馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援に努めている。	家族の面会や親戚の人、近所の人の来訪がある他、年賀状や暑中見舞い、敬老の日や父の日、母の日の交流の支援を行っている。家族の協力を得て、外出、外泊や法事や外食、ドライブ、行きつけの美容院の利用、家族が利用者と一緒に居室で宿泊できるようにするなど、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援に努めている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	楽しく会話したり、気の合う仲間とゆっくり過ごせるように、テーブルやソファの配置など居住環境などに気を配っている。月に2回、2ユニット合同で茶話会を行い、気の合う者同士でお茶をする機会も設け、利用者同士の関りを多く持とうと努めている。会話が困難な場合は、職員が間に入り、お互いが思いやりをもって接することができるよう支援している。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後もどのように過ごされているか、電話を入れたり、家族に話を伺ったりしている。また、自宅へ戻られた方で隣接の通所介護にいられている方とも時々、声をかけて、なじみの関係を続けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族から記入していただいた基本情報シートを活用、日々の関わりの中での入居者の生活の様子、薬、身体状況や気持ちに関することを「24時間生活変化シート」に分けて記録している。施設サービス計画書作成後に本人、家族とサービス担当者会議を開き、情報の共有を行い、本人、家族の意向を尋ね、望む生活の実現の為、話し合いを行っている。本人への聴取が困難な場合は家族からの意向を尋ね、職員間で話し合い、本人本位に検討している。	入居時の基本情報シートを活用している他、日々の関わりの中で利用者の生活の様子、薬、身体状況や気持ちに関することを「24時間生活変化シート」に記録し、職員全員で共有し、利用者ひとり一人の思いや意向の把握に努めている。花を生けていた利用者と一緒に毎月花を生ける、農作業をしていた利用者と一緒に菜園の土いじりをする、習字をしていた利用者には書初め等の作品を壁に飾っているなど、家族や本人の希望や意向に沿う支援をしている。困難な場合は、家族の意向を聞き、職員間で話し合って本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族やケアマネージャーなどから情報収集を行い、情報シートや入所時の情報収集にて、本人の生活歴、趣味、暮らしぶりを把握し、職員全員に周知している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの24時間シートにからだのこと、気持ちのこと、一日の過ごし方を記録し業務前に目を通し、職員全員で把握するようにしている。朝夕の申し送り時にも一人ひとりの一日の様子を伝えている。また、一人ひとりの有する力をしっかり把握し、最大限に生かせるように努めている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回個別カンファレンスを行い、本人や家族の思いや意向、主治医、訪問看護師の意見を参考にして話し合い、計画作成担当者が介護計画を作成している。毎日モニタリングを行い、月ごとにまとめ、ケアカンファレンスで話し合い、半年で見直しをしている。入居者の心身の状態に変化があれば、その都度、見直し、家族や医師、訪問看護師等に意見を確認したうえで、現状に即した介護計画を作成している。	計画作成担当者と利用者を担当している職員が中心になって月1回個別カンファレンスを行い、本人や家族の思いや意向、主治医、訪問看護師の意見を参考にして話し合い、介護計画を作成している。毎日モニタリングを実施し、月1回のケアカンファレンスで話し合い、6ヵ月毎に見直しをしている。利用者の状態や家族の状況変化に応じてその都度話し合い、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	健康チェック表や24時間シートを一人ひとり詳細に記入し、業務に入る前に目を通し、職員間で共有することで介護の実践や介護計画の見直しに活かしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族の意向を踏まえつつ、その都度、生まれるニーズに対して、臨機応変、柔軟な支援やサービスを行えるよう努めている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	学校、消防署、交番、病院、公民館、スーパー、神社、市場や地域の方々の協力を得て、住み慣れた地域の中で本人が安全で豊かな暮らしを楽しむことができるように地域資源を把握し、活用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科、心療内科共に協力医療機関があり、2週間に一度各々往診がある。入所前からかかりつけ医を決めている利用者には家族の協力のもとに受診して頂いている。協力医療機関往診の際には、利用者の心身の状態をしっかりと伝え、医師の診断後には連絡ノートに記入し全職員で共有している。緊急時にも電話で様子を伝え、指示を仰ぎ、必要であれば、往診に来て頂いている。歯科往診も必要に応じて往診がある。必要であれば皮膚科の往診も受けることができる。	利用者それぞれのかかりつけ医の他、協力医療機関をかかりつけ医としている。協力医療機関には内科、心療内科があり、2週間に一度各々往診がある。他科受診や従来からのからかかりつけ医受診は家族の協力を得て支援している。受診時や往診の時には、日々の状況を提供している。受診結果は、家族に面会時や電話で報告し、連絡ノートに記入し全職員で共有している。法人の看護師の訪問が週3回以上あり、心身の健康管理に努めている。緊急時には、協力医療機関に連絡をし適切な医療が受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日介護職員がバイタルチェックを行って健康管理を行い、週3日以上看護師の訪問により、指示や助言を受けている。日常生活の中でとらえた利用者の心身の状況の気づきや普段と違う様子を訪問看護師に伝え相談し、その結果を看護師ノートに記入し、職員間で共有している。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療関係者とカンファレンスを開き、家族同席のうえ、情報共有と情報交換を行い、利用者本人にとって最善の道を探していくよう努めている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方についての指針があり、事業所でできる対応について十分に説明している。実際に重度化した場合は家族と話し合い、主治医や訪問看護師、介護職員と共に連携を図り、サービス担当者会議を開き、これからの方針を決めていくようにしている。開設時からいまままでに2例の看取りを行った。	契約時に事業所でできる対応について「重度化した場合や終末期のあり方についての指針」に基づいて、家族に説明している。実際に重度化した場合は家族、主治医や訪問看護師、職員等で、サービス担当者会議を開き、これからの方針を決め、共有し、チームで支援に取り組んでいる。看取りも行っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	ヒヤリハットや事故報告書を記録し、職員間で事故防止策について検討後、回覧し、情報共有している。職員会議にて全ての職員に報告を行い、再検討して事故防止に取り組んでいる。内部研修にて止血、熱中症、誤嚥などについて研修を実施している。消防署員による講習にて救命救急法(AED使用)を受講し、実践力を身につけるよう努めている。	発生時には事故報告書、ヒヤリハット報告書に記録し、その日の職員で事故防止策について検討後回覧し、情報共有している。職員会議で、再検討しひとり一人の事故防止に取り組んでいる。内部研修で転倒、誤薬、窒息、火災、行方不明等について研修を実施し、実践力を身につけることに努めているが、全ての職員が応急手当や初期対応の実践力を身につけているとはいえない。	・全職員による応急手当や初期対応の定期的訓練の継続実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回行い、消防署の指導の下、火災時の避難訓練、通報訓練、避難経路の確認を行っている。訓練で、実際に通報して消防とのやり取りを行ったり、水消火器を使用して消火したり実施している。	年2回、消防署の指導により、昼夜間を想定した、火災時の避難訓練、通報訓練、避難経路の確認を利用者や地域の人の参加を得て行っている。訓練では、実際に通報して消防署とのやり取りを行ったり、水消火器の操作確認を行っている。緊急時の自治会との協力連絡網があり、法人が地域との協力体制を築いている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	内部研修にて尊厳、誇りについて学び、入居者への尊厳や敬意の念をもって仕事に臨んでいる。日々のケアの中で不適切なケアがあれば指導し、職員会議において、一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけをしているかどうか話し合いをしている。個人記録の保管に留意し、守秘義務は遵守している。	内部研修で学び、職員は理解して、一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。不適切な言動があった場合は管理者がその都度注意している。個人記録の保管に留意し、守秘義務は遵守している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人のしたいこと、着たい服等を本人の意思で決めて頂き、否定しないように言葉かけをしている。言葉で表現することが困難な利用者には表情を見ながら、自己決定できるよう配慮している。それぞれの利用者の能力を十分に生かし、自己決定できるよう働きかけ、本人の思いを大切にしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大体の一日の流れは決まっているが、職員側の都合を優先するのではなく、その人らしく暮らすことができるように一人ひとりのペースを大切に、思いに寄り添う支援をしている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に応じて、その人らしいおしゃれができるように一緒に衣類の整理整頓を行っている。また、毎月の訪問理容で好みのヘアスタイルやヘアカラーをして喜ばれている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	1月14日より配食サービスに変更される。温かい食事の提供を心掛けている。ティータイム時には手作りのお菓子(ホットケーキ、おはぎ、ゼリー、スイートポテト、ようかんなど)を用意し、美味しく食べて頂けるように工夫している。利用者と職員は同じ食卓で食事を食べている。食事の盛り付け、テーブル拭き、お膳拭き等、できることをしてもらい、家事に参加して頂いている。季節の行事食(おせち料理、恵方巻、節句料理、バーベキュー、そうめん流し、年越しそば)や外出時のお弁当、外食、誕生日の手作りケーキなど食事が楽しみなものになるように支援している。	年初めから配食サービスに変更しているが、温かい食事の提供に心がけている。利用者は食事の盛り付け、テーブル拭き、お膳拭きなど、できることを職員と一緒にやっている。利用者と職員は、同じテーブルで語らいながら食べている。おやつづくり(ホットケーキ、おはぎ、ゼリー、スイートポテト、ようかんなど)、季節の行事食(おせち料理、恵方巻、節句料理、バーベキュー、そうめん流し、年越しそば)、外出時のお弁当、外食、誕生日の手づくりケーキ、家族会と協力しての食事(ソーメン流し、年越しそば、お花見の会食等)など、食事が楽しめるように支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの状態に合わせて、食べる量を決めている。わからない場合はその都度本人に聞いている。利用者の状況に応じて、とろみ、刻み、ミキサー食の対応している。こまめな水分補給を行い、水分量が不足している利用者にはお茶ゼリーを提供している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけをし、見守りしながら、本人の力に応じた口腔ケアを行っている。また、歯科医師の往診にて磨き方の指導や助言を頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレで排泄できるように一人ひとりの力や排泄のパターンを見極め、誘導し、排泄チェック表に記入している。また、本人の表情や素振りを観察し、トイレで排泄できるように声かけや誘導を行い、排泄の自立に向けた支援を行っている。	「排泄チェック表」や「24時間生活変化シート」を活用して、排泄のパターンを把握して、個々に合わせた声かけや誘導を行い、トイレでの排泄の自立に向け支援している。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時にホットミルク等の飲み物を飲んで頂いたり、手作りヨーグルトを提供している。食事では、食物繊維が豊富で、管理栄養士の指導の下、バランスのとれた食事メニューとなっている。運動を取り入れたレクリエーションや歩行訓練を行い、便秘の予防に取り組んでいる。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は毎日、午前、午後と行っている。個々に合わせて、一緒に歌を歌ったり、話をするなど、ゆっくりと入っていただけるように支援している。入浴剤や冬至には柚子湯にして季節感を味わってもらえるようにしている。入浴したくない利用者には無理強いしないで待ったり、職員を代えたり、言葉かけの工夫をしている。入居者の状態に合わせて、清拭や足浴など個々に応じた入浴支援をしている。	入浴は毎日、午前、午後行っている。入浴剤の利用や季節の柚子湯の利用、歌を歌ったり、話をしたりゆったりとくつろいだ入浴になるよう支援している。入浴したくない利用者には無理強いしないでタイミングを考えた言葉かけや、職員を代える等の工夫をしている。利用者の状態に合わせて、清拭や足浴など個々に応じた入浴支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後は利用者の半数以上の方が自然と居室やソファで休んでおられる。夜間は特に室温や乾燥、物音に気をつけ、安心して気持ち良く眠れるよう環境を整えている。また年齢(高齢)や体調等配慮し、いつでも休みたいときにはゆっくりと自室で休めるようにしている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬説明書には必ず目を通し、薬の目的、副作用、用法や用量について理解している。服薬後、症状に変化があった場合、記録し、職員間で共有し、主治医に伝え相談している。薬の配達、セットまでは薬局(薬剤師)が行っており、わかりやすく一包化にし、ミスや飲み忘れがないように努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家族と一緒に花見、そうめん流し、年越しそば、大掃除、誕生日会の他、ボランティア(コーラス、ハーモニカ演奏、フラダンス、平家太鼓、婦人会)との交流を図り、楽しみごと、気分転換の支援をしている。利用者一人ひとりが張り合いや喜びの日々を過ごせるようにレクリエーション(間違い探し、ことわざ、カルタ、風船バレー、計算、書写、ぬり絵、折り紙、ちぎり絵、タオル体操、歌など)を行い、日常生活において役割を持って生活できるように職員と一緒に家事(調理(盛り付け)、洗濯、掃除、畑仕事、散歩など)の支援をしている。	間違い探し、ことわざ、カルタ、風船バレー、計算、書写、ぬり絵、折り紙、ちぎり絵、タオル体操、歌を歌う、花を生ける、盛り付け、洗濯、掃除、畑仕事、家族と一緒に花見、そうめん流し、年越しそば、大掃除、誕生日会の他、毎月の歌の会やユニットを交互に代えての月2回の茶話会、ボランティア(コーラス、ハーモニカ演奏、フラダンス、平家太鼓、婦人会)との交流を図り、楽しみごと、気分転換の支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や散歩、季節の花見(梅、桃、桜、菖蒲、バラ、向日葵、コスモス、紅葉)、ドライブ(道の駅、江汐公園、東行庵、園芸センター、川棚、リンゴ園、いちご狩り、長府庭園、回転寿司、ゆめシティ)など、月に一度は出かけている。家族の協力を得て、外出、美容院、買い物、カラオケ、外食、外泊、法事への参加など戸外に出かけることができるように支援している。	月に一度は外出の日を設けている。家族との現地で合流や退職をした職員の協力がある。買い物や散歩、季節の花見(梅、桃、桜、菖蒲、バラ、向日葵、コスモス、紅葉)、ドライブ(道の駅、江汐公園、東行庵、園芸センター、川棚、リンゴ園、いちご狩り、長府庭園、回転寿司、ゆめシティ)などの他、家族の協力を得て、外出、美容院の利用、買い物、カラオケ、外食、外泊、法事への参加など戸外に出かけることができるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持金は持っておられないが、必要なもの、欲しいと言われる物は立替金から購入している。外出支援で一緒に出掛け、衣料品を購入する際に、レジで簡単な精算を一緒にすることもある。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の声が聞きたくなった時には、家族の協力のもと本人自ら電話して頂いている。また、家族に年賀状や暑中見舞いの葉書、お菓子やお花等いただいた時のお礼状を書いて頂いている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは明るく、室内にはテーブルや椅子、テレビ、ソファを配置し、入居者の方々はゆったりと過ごしておられる。窓からは、季節ごとの花や植物、山々が見え、季節感を味わうことができる。また、壁面には職員と入居者が一緒に作った作品を飾ったり、玄関やリビングには季節の花を活けている。温度、湿度、換気、臭いに配慮して居心地よく過ごせるようにしている。	窓から通りが見え、人の往来が分かり、川沿いにあるので心が安らぐ。リビングは明るく、室内にはテーブルや椅子、テレビ、ソファを配置し、利用者が、ゆっくりくつろぐことができるよう工夫してある。開放的なアイランド型キッチンで、利用者は食事の準備等から生活感を感じることができる。壁面には、利用者と職員が一緒につくった作品(貼り絵、塗り絵、折り紙等)を飾り、季節を感じることができる。玄関やリビングには利用者と一緒に生けた季節の花がある。温度、湿度、換気、臭いに配慮して居心地よく過ごせるようにしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下や台所横に椅子を置き、ひとりで休憩したり、気の合った利用者同士で話ができるように居場所の工夫をしている。畳の部屋があり、休んだり、音楽を聴いたりして過ごすことができる。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使い慣れたベット、文机、布団、衣類、衣装ケース、椅子、鏡台などを持って来られ、集団生活の中で「私の部屋」として認識できている。写真や色紙、カレンダーやぬり絵を飾り、居心地よく過ごせる工夫をしている。	使い慣れたベット、文机、布団、衣類、衣装ケース、椅子、鏡台、仏壇や遺影などを持ち込み、壁には家族の写真や色紙、カレンダーやぬり絵を飾って、本人が居心地よく過ごせる工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーで手すりを設け、安全に歩行、移動できるように配慮されている。居室には、わかりやすいように花飾りや表札をつけ、声かけすれば、自分で居室に戻れるように支援している。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム小月

作成日: 令和 2 年 6 月 4 日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	全職員が応急手当や初期対応に関して実践力を身につけるまでには達していない	応急手当や初期対応の訓練を定期的に行う	①毎月、職員会議の時間に、急変時や事故発生時等、いろんな想定で、応急手当、初期対応を実践を交え。講義を行う。 ②普通救命講習(3時間講習)を受ける。	12ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。